

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (四国)	◎	－	－	－
	○	スーパー（店長）	販売量の動き	・お盆商戦が好調だったことに加え、地震の防災備蓄及び猛暑の需要で売上が増加した。
	○	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・8月8日の地震発生後、南海トラフ地震臨時情報が発表され、西日本への帰省客の減少等の影響を受けることも想定されたが、お盆の帰省需要は当初計画どおりに推移した。一方で、異常気象による気温の上昇もあり日中の買物需要が減る傾向にあるが、全体では前年を上回る見込みである。
	○	スーパー（統括担当）	来客数の動き	・8月の来客数は、帰省客が増えたためか、増加した。
	○	スーパー（人事）	お客様の様子	・地震及び台風の防災として、水などの備蓄品を求めた客が殺到し、特需が生まれた。
	○	コンビニ（総務）	来客数の動き	・夏休み及びお盆休みの人の動きに加え、比較的、天候に恵まれたことから来客数が若干増加した。
	○	自動車販売店（役員）	販売量の動き	・メーカーの受注制限車種の減少及び増産により、回復傾向である。
	○	美容室（経営者）	来客数の動き	・7月及び8月に客が動いたので売上が増加した。今年はお盆休みが長期連休のため、帰省客が多くなると予測していたが、南海トラフ地震臨時情報がお盆に出たことから、帰省キャンセルの客も少し発生した。
	□	商店街（常務理事）	販売量の動き	・酷暑と新型コロナウイルス感染症の第11波は高齢者層の商店街への来街を少なからず遠のかせている。引き続きの物価高騰であり、消費者の財布のひもは相変わらず固い。高価格品需要のみが好調で、その他の消費には賃上げ及び定額減税による効果はほとんどみられない。
	□	商店街（代表者）	お客様の様子	・今年も暑い日が続いており、客が外出の頻度を抑制するとともに、外出時間を短縮している。それに加え、経費及び仕入価格等の高騰に伴い、販売価格に多少転嫁されていることから、消費者の節約志向もみられる。
	□	百貨店（マネージャー）	来客数の動き	・インバウンドについては好調に推移しているが、日本人の売上は前年に比して減少傾向が続いている。
	□	スーパー（店長）	販売量の動き	・地震及び台風などの災害を想定した備蓄需要が発生している。
	□	スーパー（企画担当）	単価の動き	・商品の値上げラッシュは一段落してきたが、前年との比較においてはかなりの値上げが発生し、その結果、売上の増加につながっている。
	□	スーパー（財務担当）	来客数の動き	・晴れの日であるお盆商戦は帰省客も多く、来客数、売上とも好調であった。
	□	コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数は減少する一方、客単価は前年並みであり、売上は前年割れとなった。物価上昇中のため、客単価は上昇するはずだが上昇しておらず、購買力が低下している。
	□	コンビニ（商品担当）	単価の動き	・物価上昇、人件費及び物流費の高騰が続き、この夏は南海トラフの危機管理から、店頭での米不足なども発生している。
	□	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・8月はバーゲンセール真っ最中の月であり、本来はそこそこ良くないといけない。今年の場合も、例年比ではそこそこ良かったものの、台風の影響により厳しくなる。
	□	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・衣料品販売では、ここ3か月前と比べて来客数及び販売量など良くなっていない。全ての物価が上昇し、消費は全体的に良くない。
	□	衣料品専門店（営業責任者）	販売量の動き	・前年並みに売上は推移しているが、来客数の減少が進んでいる。暑さが厳しいことも影響し、なかなか来店が進まず、苦戦している。
	□	家電量販店（店員）	販売量の動き	・販売価格が若干上がっていることも関係し、購入を見送るケースが見受けられる。

	□	家電量販店（副店長）	お客様の様子	・来客数は前年並みであるが、猛暑の影響でエアコン及び冷蔵庫等の販売台数が、前年と比較して130%伸びている関係で、客単価は前年比108%となっている。
	□	乗用車販売店（役員）	お客様の様子	・購買意欲に大きな変化はない。客の来場は一定数あるものの、成約に至るまでには時間を要している。
	□	タクシー運転手	お客様の様子	・全体的に8月は祭り等があり人の動きは良くなるが、南海トラフ地震臨時情報や台風10号の影響により、客足が減少している。昼の状況も熱波により、高温の日が続いたため人の動きは少なかった。
	□	観光遊園地（主幹）	来客数の動き	・インバウンドが高水準で来場している。今後もしばらくはこの傾向が続くとみられる。
	□	競艇場（マネージャー）	販売量の動き	・物価上昇による買い控えが危惧されたが、今のところ、その兆候はみられず、堅調な売上で推移している。
	□	美容室（経営者）	来客数の動き	・夏休みの影響により、学生の来客が多い。
	□	設計事務所（所長）	単価の動き	・建設の単価は相変わらず高止まりの状態が続いている。
	▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・夏の祭りイベント時は人が出てくるが、平日の特に夕方は来街者数は減少している。
	▲	一般小売店〔生花〕（経営者）	来客数の動き	・法人及びインターネットの注文は、必要分の注文が一定数あるが、猛暑及び商品の価格上昇のため、来客数が減少している。また、個人客の客単価も減少している。
	▲	コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数が今春以降やや減少傾向にあり、今月もその傾向が続いている。また、買物の様子で消費の弱さがうかがえる。加えて、買上点数も減少傾向にある。
	▲	乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・人気車の長納期化及びメーカーの問題により販売車種が限られていることから、減少している。
	▲	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・地元有力観光施設の大規模修理完了により、好調に推移していた。しかし、日向灘沖地震及びその後発出された南海トラフ地震臨時情報により、大きなキャンセルが発生し旅行マインドについても悪影響を与えている。
	▲	都市型ホテル（経営者）	お客様の様子	・猛暑により人の動きが悪くなっているなか、地震及び台風によりキャンセルが多発し、大きく収入が減少した。特に台風10号は動きが遅く、長期間にわたって影響を及ぼしている。
	×	一般小売店〔文具店〕（経営者）	販売量の動き	・仕入れをしている各メーカーより、値上げの依頼が今年に入り今回で3回目となり、我々販売店や客先に大きなダメージが重なっている。今後どうなるかが心配である。
	×	一般小売店〔酒〕（経営者）	お客様の様子	・酷暑に加え、南海トラフ地震臨時情報の発表及び台風接近などによる外出控えによって、飲食店への納品が低迷した。
	×	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・店頭売上の前年割れが続いており、外商売上也月前は前年割れとなった。
	×	一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・来客数は、少し増加したが、注文数や滞在時間は減少している。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・真夏で暑く、街中で走っていると、近い場所に行く人は結構乗ってくれるが、夜はそこまで多くない。四国遍路の仕事がほぼないため、春に比べると悪いとみられる。
企業動向関連 (四国)	◎	通信業（企画・売上管理）	受注量や販売量の動き	・東京及び大阪を中心とした大手スポンサーのCMが活況だった。
	○	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前年度来、売上に関しては順調に推移しているが、8月も夏物が好調である。特にインバウンド観光客が土産として買い求めている割合は大きい。国内需要も旺盛とみられる。
	○	輸送業（経営者）	それ以外	・総裁選があり雰囲気は良くなった。期待感が大きい。

	農林水産業（職員）	受注価格や販売価格の動き	・青果物の卸売価格については、猛暑から野菜全般で作況が悪く、入荷も少ないことから、単価は高値傾向にある。しかし、収穫量減少を補うまでの単価上昇にはなっておらず、農家所得は減少している。一方、消費需要は物価上昇に伴う買い控え傾向のなかで、必要最小限の購買にとどまっておき、生鮮野菜の店持ちの悪さもあり量販店でのロス率も高まっており、三方悪しの状況である。	
	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・国内向けは、大規模工事が実施・計画されている一方で、慢性的なオペレーター不足や労働時間上限規制の影響を見極める動きもあり、需要は減少している。海外向けは、アジア・オセアニア・アフリカで需要が減少したものの、全体としては増加している。	
	電気機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・再生可能エネルギー等の設備業者であるが、現状の政治の混乱及び南海トラフ地震の情報等により、他社の事業マインドが極端に下がっているとともに、自分自身も同様であることから状況は変わらないとみられる。	
	通信会社（総務担当）	取引先の様子	・取引先との会話で、景気が良くなったという内容がない。社会貢献活動でも寄附する企業が減っていると聞いている。	
	税理士事務所	取引先の様子	・取引先の状況を確認すると大差がない。	
	木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・受注の動きが鈍化した。夏休みが長かったことと猛暑が続き建設現場作業の進捗が遅れたことが要因である。	
	建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・最近公共工事で設計金額が、現実よりも非常に低い物件が多くなった。	
	金融業（副支店長）	取引先の様子	・建築業の建売数が前年比では3割ほど減少している。	
	×	—	—	
雇用 関連	◎	—	—	
	○	—	—	
(四国)	□	人材派遣会社（総務部長）	求職者数の動き	・外部登録会やお仕事相談会を実施しているが、求職者不足は改善されていない。
	□	求人情報誌（営業）	求人数の動き	・周辺企業では、人材を採用できないため求人を出し続けている。人手不足による疲弊もみられ、景気は横ばいと判断している。
	□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・消費者物価が上がり購買力が低下している。企業は広報費を抑え元に戻る様子はない。
	□	職業安定所（求人開発）	求職者数の動き	・新規求職者数は若干減少傾向が続いている。前月に引き続き、より良い条件を求めて転職活動をする在職者や、育児、介護及びその他の理由でしばらく仕事に就いていなかったが、家計を支えるために求職活動を始める求職者等が増加したため、いずれも早期の就職に至らず、有効求職者数は増加していることから、結果的に3か月前と余り変わらない。
	▲	*	*	*
	×	—	—	—